

進学希望の変化に与えるオープンキャンパスの効果研究

——九州地区国立4大学によるベンチマーキングを通じて——

三好 登 (大分大学, 現: 広島大学), 望月 聡 (大分大学), 福井 寿雄, 西郡 大 (佐賀大学),
吉村 幸, 當山 明華 (長崎大学), 藤井 良宜 (宮崎大学)

本研究では、進学希望の変化に与えるオープンキャンパスの効果を明らかにするため、大分大学・佐賀大学・長崎大学・宮崎大学による比較を通じて検討を試みた。このことを通じて、各大学・学部における訴求力のあるオープンキャンパスの企画及び、その進め方を提示する。分析の結果から、オープンキャンパスに参加した高校生の性別、学年及び、志望順位の与える影響について大学間で違いはみられないものの、出身県に関しては異なることが確認された。また大分大学を事例とした分析の結果より、各学部でオープンキャンパスが運営されている性格上、教育内容、就職状況、入試方法・内容や、取得できる資格にかかわる情報である「学部関連情報」のものを十分享受し得たときに進学希望の気持ちの変化が生じることもわかった。

1. 研究背景と目的

2017年度の大学進学率は52.6%で、大学進学者数も629,733人(学校基本調査, 2017)となっている。その一方で、2017年度の18歳人口は、全国で約120万人となっているものの、2030年度には約100万人まで減少することが見込まれている(中央教育審議会, 2017)。このため大学は、より戦略的に学生募集・入試広報に取り組み、学生確保を行う必要がある。

このような状況の中で、本研究が対象とする大分大学・佐賀大学・長崎大学・宮崎大学のある九州地域の2017年度における18歳人口は約14万人で、全国9地域中で4位となっており、全国的にみれば、ほぼ中央に位置している。だが、九州8県の中でも大分県は7位、佐賀県は8位、長崎県は5位、宮崎県は6位と、18歳人口が最も少ない地域エリアとなる(進研アド, 2017)。よって、これらの地域に位置し、本研究が対象とする大分大学・佐賀大学・長崎大学・宮崎大学には、九州他県の大学と比べ、さらに一層の学生募集・入試広報に努めていくことが求められている。

現在、大学による主な学生募集・入試広報の方法として、オープンキャンパス、進学説明会、大学説明会や、模擬授業(出前講義)がある。本研究ではその一つであるオープンキャンパスが、進学希望の変化にどのような影響を与えるかにつき、大分大学・佐賀大学・長崎大学・宮崎大学による比較を通じて検討を試みる。このことを明らかにすることを通じ、各大学・学部において訴求力のあるオープンキャンパスの企画や、その進め方について提示する。

2. 先行研究と課題の設定

2.1 先行研究

大学において行われている様々な学生募集・入試広報の効果にかかわる研究は数多く存在する。そしてその多くは当該大学の「大学入学前のオープンキャンパスなどでの調査」及び、「大学入学後の新入生アンケート調査」を用い、研究が行われている。

まず「大学入学前のオープンキャンパスなどでの調査」を用いた研究についてである。大学による学生募集・入試広報が、志望順位にどのような影響を与えているのか研究を行った平尾ら(2011)は、いずれの学生募集・入試広報についても正の効果がみられることを確認した。特にオープンキャンパスは、他の要因よりもはるかに強い影響力を持っており、具体的にオープンキャンパスにかかわるどのような側面が有効であるか明らかになっていない点に課題を残してはいるものの、その学生募集・入試広報自体の有用性を解明したという点で極めて先駆的な研究であると言える。またこれら学生募集・入試広報の多くは、アドミッションセンターや、学部教員によって行われるが、在学生による入試広報の効果という観点から研究を行った永田(2011)は、大学説明会における在学生による高校時代や大学生活、さらには受験体験などの語りかけが参加者に評価されていることを明らかにし、教職員と在学生の協働による学生募集・入試広報の企画・実施の重要性を指摘している。さらに多くの学生募集・入試広報では、広報用に作成した大学説明スライド、あ

るいは大学案内などを使用して口頭で説明する機会が多いが、池田ら(2013)は、特に理系分野において口頭で説明するよりも、実験講義の方が、より効果があることを明らかにしている。

次に「大学入学後の新入生アンケート調査」を利用した研究についてである。2008年度から2011年度にかけて実施した新入生アンケート調査を用い、受験校決定理由の特徴を抽出した吉村(2013)によれば、推薦入試入学者で特に「OC参加」の選択率が20%を超えており、積極的に当該大学を選んで受験している様子が見え、その状況についても経年変化がみられないこと明らかにしている。また東北大学を事例とした鈴木ら(2003)の研究によると、東北大学ではAO入試入学者についても同様に、オープンキャンパスが重要であったと捉えられていることが報告されている。加えて、入試広報で最も参考になったものと入試形態と入試順位の関係についてみた雨森(2016)によると、推薦入試入学者の合格上位層においてオープンキャンパスという実際の訪問が、合格中間層では高校の先生からの情報、合格下位層では大学のホームページ・大学案内の割合がそれぞれ高くなっており、推薦の質には直接的な情報伝達が影響することが明らかにされている。

そして新入生及び、その保護者が利用した広報媒体とその有用性について研究した並川ら(2014)によれば、新入生が利用した広報媒体は、大学のホームページ、大学案内、学部・学科のホームページ、学部案内の順で多くなっており、保護者についてもこれら4つが上位を占めていた。この研究成果は、当該大学入学者は情報源として大学案内や、大学のホームページを多く利用しているものの、大学案内と比べ、ホームページからの情報は限定的であるとする本多ら(2011)と異なるものであるが、その評価についてみると、オープンキャンパスは大学案内、大学のホームページ同様上位で、受験生へのアピールという点では有用であることが示されている。

2.2 課題の設定

大学における学生募集・入試広報効果に関する研究は、自大学で実施した「大学入学前のオープンキャンパスなどでの調査」及び、「大学入学後の新入生アンケート調査」に基づいて進められてきた。それは、各大学にとっていかに学生を獲得しているかということは、国立大学にとってみれば運営費交付金、私立大学にとってみれば私立大学等経常費補助金の問題と絡んでいることから、それを本研究にお

いて試みているような、予め大学間で共通のベンチマーキング項目を決め、その学生募集・入試広報効果について大学間で連携し、比較検討するということが一種のタブーであったからであると考えられる。

また進学希望もしくは、進学した学生に有効であった学生募集・入試広報の一つとして、先行研究ではオープンキャンパスがあげられている。しかしオープンキャンパスと一概に言っても実際には、各学部で企画、実施されるものであり、そこにおける情報発信の特色は千差万別であるのが実情で、オープンキャンパスでいかなる情報発信を行い、学生獲得につなげているのか、いわばその内容にかかわる効果に関しては依然として明確となっていない。

オープンキャンパスでは一般に、教育内容、就職状況、入試方法・内容、クラブ・サークル活動の状況、奨学金、アルバイト、学生生活、住居・住宅情報及び、取得できる資格にかかわる情報発信が行われている。そこで本研究ではその情報種類によって、クラブ・サークル活動の状況、奨学金、アルバイト、学生生活や、住居・住宅情報を「全学関連情報」、また教育内容、就職状況、入試方法・内容や、取得できる資格にかかわる情報を「学部関連情報」に分けた上で、オープンキャンパスが各学部で企画、実施され、そこに高校生が参加しているため、オープンキャンパスを通じた高校生の進学希望の変化は、「学部関連情報」のものを十分享受し得たときに正の効果が生じるという仮説を検証する¹⁾。

3. 研究方法

本研究では、各大学において2017年7月15日(長崎大学)、8月10日(大分大学・佐賀大学)、8月10日・11日(宮崎大学)に開催されたオープンキャンパスに参加した参加者(高校生など)5,248名・4,114名・6,501名・4,912名にアンケートを配布し、2,222名・2,365名・1,848名・2,146名から回収を行った。回収率は、42.3%・61.3%・28.4%²⁾・43.7%であった。

アンケートの内容について、各大学で違いはあるものの、大まかには1)回答者自身に関わる事柄(性別、学年、高校名、出身県)、2)オープンキャンパスにかかわる事柄(参加学部、志望順位、オープンキャンパスの情報の入手方法、オープンキャンパス満足度、オープンキャンパスを通じた進学希望の変化など)となっている。そしてこれらの項目のうち、本研究では共通項目、具体的には性別、学年、志望順位及び、出身県を中心とした分析を行う。

4. 分析結果と考察

本節では、大分大学・佐賀大学・長崎大学・宮崎大学におけるオープンキャンパスを通じた進学希望の変化について、全学・学部別に、4.1で性別、4.2で学年、4.3で志望順位、そして4.4で出身県との関係をそれぞれ分析する。その上で、大分大学を事例とし、進学希望の変化に与えるオープンキャンパスの効果について検証を行うこととする。

4.1 性別

4.1.1 大分大学

まず性別と大分大学進学希望の変化との関係についてみると、「志望の気持ちが強くなった（男性：521名<53.7%>，女性：756名<53.2%>）」、「変わらない（423名<43.6%>，622名<43.7%>）」、「志望の気持ちが弱くなった（15名<1.5%>，29名<2.0%>）」、「そのほか（11名<1.1%>，15名<1.1%>）」と、男女を通じ、オープンキャンパスは大分大学への志望の気持ちを肯定的なものへと変化させる効果を持っていると言える。これを学部別にみると男女共通し、特に医学部で、「志望の気持ちが強くなった（30名<61.2%>，116名<66.7%>）」と肯定的な回答が多くなっていることがわかった。

次に性別と大分大学進学希望の変化についてT検定を実施した。T検定の結果から、性別によって有意差が認められず（ $t=0.519$ ， $df=2390$ ，n. s.），改めて男女共通したものであることが確認できた。

4.1.2 佐賀大学

初めに、性別と佐賀大学進学希望の変化との関連についてみると、「志望の気持ちが強くなった（男性：233名<45.2%>，女性：577名<46.9%>）」、「変わらない（253名<49.0%>，578名<47.0%>）」、「志望の気持ちが弱くなった（18名<3.5%>，56名<4.6%>）」、「そのほか（12名<2.3%>，19名<1.5%>）」となっていることが確認できた。女性は「志望の気持ちが強くなった」という回答も多いものの、男女とも「変わらない」が最多を占めているのは、今年度（2017年度）参加者における佐賀大学第一志望者割合が、第二志望以下よりも多くなっていることによる（2016年度27.3%→45.3%）。つまり、佐賀大学への第一志望は「変わらない」ということだろう。

また学部別に「志望の気持ちが強くなった」割合をみると、医（56.5%）、看護（51.2%）、芸術（50.0%）という技能を修得する系統で高い。参加者の感想から、それらの学部では特に体験的な企画が開催され、

好評を博しているのがわかる。工夫を凝らした企画を実行すれば、訴求力は上がると思われる。

4.1.3 長崎大学

まず性別と長崎大学進学希望の変化との関係についてみると、「志望の気持ちが強くなった（男性：463名<56.2%>，女性：661名<60.6%>）」、「変わらない（354名<43.0%>，420名<38.5%>）」、「志望の気持ちが弱くなった（7名<0.9%>，10名<0.9%>）」となった。進学希望の気持ちの変化に男女による違いはみられず、男女を通じ、オープンキャンパスは長崎大学への志望の気持ちを肯定的なものへと変化させる効果を持つことが確認できた。

4.1.4 宮崎大学

初めに、性別と宮崎大学進学希望の変化との関係についてみると、「志望の気持ちが強くなった（男性：475名<49.6%>，女性：541名<54.8%>）」、「変わらない（450名<47.0%>，406名<41.1%>）」、「志望の気持ちが弱くなった（5名<0.5%>，9名<0.9%>）」、「そのほか（27名<2.8%>，31名<3.1%>）」と、男女を通じ、オープンキャンパスは宮崎大学への志望の気持ちを肯定的なものへと変化させる効果を持っていると言える。これを学部別にみると、「志望の気持ちが強くなった」という肯定的な回答が、特に医学部においては、男性：69名<55.6%>，女性：258名<61.7%>と男女とも高くなっており、農学部では女性（91名<60.3%>）が、そして地域資源創成学部では男性（59名<66.3%>）が、それぞれ高くなっていることが確認できた。

次に性別と宮崎大学進学希望の変化についてT検定を実施した。T検定の結果から、性別によって有意差が認められず（ $t=1.377$ ， $df=1942$ ，n. s.），改めて男女共通したものであることが確認できた。

4.2 学年

4.2.1 大分大学

まず学年と大分大学進学希望の変化との関連性についてみてみると、「志望の気持ちが強くなった（高校1年生：449名<41.1%>，高校2年生：477名<59.2%>，高校3年生：342名<71.5%>）」、「変わらない（607名<55.6%>，310名<38.5%>，122名<25.5%>）」、「志望の気持ちが弱くなった（23名<2.1%>，11名<1.4%>，10名<2.1%>）」、「そのほか（13名<1.2%>，8名<1.0%>，4名<0.8%>）」となっており、学年が上がるにつれ、オープン

キャンパスを通じて志望の気持ちが強いものへと変化することがわかった。またこれを学部別にみると特に、経済学部（149名<46.1%>、107名<54.9%>、129名<75.9%>）及び、福祉健康科学部（84名<32.9%>、115名<62.2%>、80名<72.1%>）でその傾向が強いことが確認できる結果となっている。

次に大分大学進学希望の変化における学年の影響を分析するために分散分析・多重比較を実施した。分析の結果から、学年の効果は有意であった($F(2, 6) = 39.04, p < 0.01$)。Turkeyを用いた多重比較によれば、「高校3年生」と「高校1年生」「高校2年生」との間に有意差があり、このことから学年が高いとオープンキャンパスを通じて志望の気持ちが肯定的なものとなることが改めて明らかとなった。

4.2.2 佐賀大学

初めに、学年と佐賀大学進学希望の変化との関係についてであるが、「志望の気持ちが強くなった（高校1年生：157名<34.2%>、高校2年生：354名<41.6%>、高校3年生：268名<70.3%>）」、「変わらない（271名<59.0%>、448名<52.6%>、92名<24.1%>）」、「志望の気持ちが弱くなった（16名<3.5%>、39名<4.6%>、18名<4.7%>）」、「そのほか（15名<3.3%>、10名<1.2%>、3名<0.9%>）」となっていることが確認できた。このことから、学年が進行するにつれて志望度を高める者が増え、「変わらない」者とは対称的な動きを示していると言える。

高校3年生について性別でみると、男性72.2%、女性69.2%となっており、男性の方が高い。今年も女性の参加者が多かったにもかかわらず（男女比：3：7）、少数派である男性の、さらに入試を目前にした高校3年生で高評価されているのが特徴的である。

4.2.3 長崎大学

まず学年と長崎大学進学希望の変化との関連性についてみると、「志望の気持ちが強くなった（高校1年生：203名<44.3%>、高校2年生：550名<54.8%>、高校3年生：269名<71.5%>）」、「変わらない（203名<44.3%>、444名<44.2%>、104名<27.7%>）」、「志望の気持ちが弱くなった（2名<0.4%>、10名<1.0%>、3名<0.8%>）」となっており、どの学年でもオープンキャンパス参加者の半数以上は志望の気持ちを高めている。特に3年生では参加者の70%以上が志望の気持ちが強くなったと回答しており1、2年生のそれを大きく上回っている。

オープンキャンパスへの参加の志望の気持ちへの

影響が学年によって異なることの背景には参加の動機の違いがあると考えている。高校教諭へのヒアリングや高校生との会話等に基づく、1年生や2年生は学校行事として参加しているケースが少なからずあるが、3年生ではそのようなことを耳にしない。また、長崎大学が第一志望であると回答した者が1年生で51.3%、2年生で43.4%、3年生で72.4%であったことにも参加動機の違いが表れていると考えられる。オープンキャンパスがどのように働くかは1、2年生と3年生とは異なる可能性もある。今後はこのような観点からの調査も必要と考える。

4.2.4 宮崎大学

初めに、学年と宮崎大学進学希望の変化との関連性についてみると、「志望の気持ちが強くなった（高校1年生：289名<40.1%>、高校2年生：452名<54.0%>、高校3年生：261名<72.1%>）」、「変わらない（406名<56.3%>、355名<42.4%>、87名<24.0%>）」、「志望の気持ちが弱くなった（5名<0.7%>、6名<0.7%>、3名<0.8%>）」、「そのほか（21名<2.9%>、24名<2.9%>、11名<3.0%>）」となっており、学年が上がるにつれ、オープンキャンパスを通じて志望の気持ちが強いものへと変化することがわかった。またこれを学部別にみると特に、工学部（87名<34.8%>、127名<41.2%>、95名<73.6%>）、農学部（26名<38.8%>、66名<55.5%>、38名<76.0%>）でその傾向が強いことがわかる。

次に宮崎大学進学希望の変化における学年の影響を分析するために分散分析・多重比較を実施した。分析の結果から、学年の効果は有意であった($F(3, 1) = 28.98, p < 0.01$)。Turkey HSDを用いた多重比較によれば、「高校1年生」、「高校2年生」、「高校3年生」のどの2つの群の間にも有意差があり、学年が高いとオープンキャンパスを通じて志望の気持ちが肯定的なものとなることが改めて解明された。

4.3 志望順位

4.3.1 大分大学

まず志望順位と大分大学進学希望の変化との関連性についてみると、「志望の気持ちが強くなった（第一志望：824名<72.5%>、第二志望以下：374名<44.3%>、受験を全く考えていない：70名<17.5%>）」、「変わらない（291名<25.6%>、447名<53.0%>、305名<76.4%>）」、「志望の気持ちが弱くなった（17名<1.5%>、14名<1.7%>、13名<3.3%>）」、「そのほか（5名<0.4%>、9名<1.1%>、11名<

2.8%>)」というように、第一志望であるものほど、オープンキャンパスを通じて、より志望の気持ちが強くなっている一方で、第二志望以下及び、受験を全く考えていないものほど、変わっていないことがわかった。またこれを学部別にみると特に経済学部において、第一志望であるものほど、「志望の気持ちが強くなった(267名<75.0%>, 97名<44.1%>, 24名<21.2%>)」、逆に第二志望以下及び、受験を全く考えていないものほど、「変わらない(86名<24.2%>, 114名<51.8%>, 81名<71.7%>)」で顕著であることが明らかとなった。

次に大分大学進学希望の変化における志望順位の効果を分析するために分散分析・多重比較を行った。分析の結果より、志望順位の効果は有意であることがわかった($F(2, 2377) = 167.192, p < .01$)。またTurkeyによる多重比較も行い、「第一志望」と「第二志望以下」「受験を全く考えていない」との間に各々有意差があることが確認できた。このため、オープンキャンパス参加時にすでに大分大学への志望順位が高いと、オープンキャンパスを通じて、より志望の気持ちが明確化されると言える。

4.3.2 佐賀大学

初めに、志望順位と佐賀大学進学希望の変化との関係についてみると、「志望の気持ちが強くなった(第一志望: 548名<68.2%>, 第二志望以下: 238名<33.8%>, 志望外: 19名<8.4%>)」、「変わらない(207名<25.8%>, 430名<61.1%>, 189名<83.3%>)」、「志望の気持ちが弱くなった(41名<5.1%>, 28名<4.0%>, 7名<5.0%>)」、「その他(7名<0.9%>, 8名<1.1%>, 12名<5.3%>)」となることが確認できた。当初から佐賀大学を第一志望として考えている者の7割近くが、さらに志望を固める効果をオープンキャンパスが有していたと言えるが、その一方で、第二志望以下の三人に一人、志望外の十人に一人以下しか志望度を上げるに至っていないということも同時に限界点として解明された。志望として考えていない者の8割という圧倒的多数で志望度が「変わらない」と答えたことも、インパクトに欠けるオープンキャンパスであった可能性があるのではないかと反省させられる結果である。

これを学部別に志望順位に応じて「志望の気持ちが強くなった」割合をみていくと、第一志望者において志望度を高めたと多数が答えたのが医(82.2%)で、看護(70.7%), 芸術・経済(いずれも70.2%)と続く。生徒の期待度に相応できた学部と評価できよう。第二

志望以下においては農が高い(40.2%)。またここでも医は高いレベルを保っている(38.4%)。第一志望でなかった者の4割前後に佐賀大学志望を強めさせる効果を有したということだから、企画・取り組みに評価すべきものがあると考えられる。また芸術においては志望外であった生徒の18.8%が佐賀大学志望を強めたと答えている(次点は医の16.7%)。学部ガイドダンスも学科レベルの紹介も自主的な企画に任せているのだから、それぞれの工夫・努力が奏功しているか詳細に検証する必要がある。

4.3.3 長崎大学

まず志望順位と長崎大学進学希望の変化との関連性についてみると、「志望の気持ちが強くなった(第一志望: 765名<76.2%>, 第二志望以下: 310名<45.5%>, 受験を全く考えていない: 39名<18.8%>)」、「変わらない(233名<23.2%>, 363名<53.3%>, 166名<80.2%>)」、「志望の気持ちが弱くなった(6名<0.6%>, 8名<1.2%>, 2名<1.0%>)」となった。この結果から、オープンキャンパスは長崎大学を第一志望とする参加者の志望の気持ちをさらに強めるものとなっている。

注目すべきは第二志望以下とした参加者の約半数、受験を全く考えていないとした参加者の20%弱が長崎大学を志望する気持ちが強まった、つまり志望順位が変化したと回答している点である。このことをさらに詳しく調べるために変数に「学年」を加え多重対応分析を行った。布置図(図1)から志望の気持ちが強くなったと回答したのは、第一志望の高校3年生が中心であることがわかる。第二志望以下では志望の気持ちは変わらない傾向が読み取れ、オープンキャンパスに参加することで志望順位が大きく変化することはなさそうである。

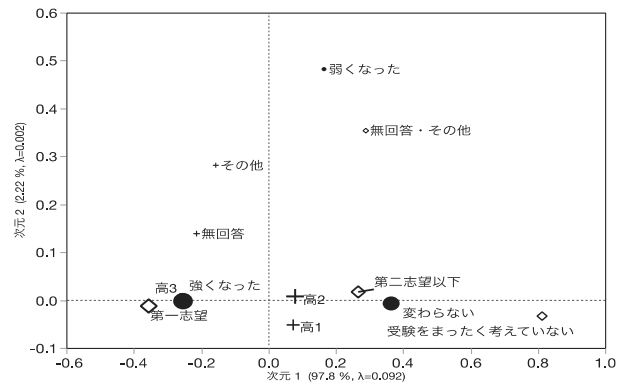


図1 志望の気持ちの変化, 学年, 志望順位の布置図

4.3.4 宮崎大学

初めに、志望順位と宮崎大学進学希望の変化との

関連性についてみると、「志望の気持ちが強くなった（第一志望：646名<76.6%>，第二志望以下：327名<41.6%>，受験を全く考えていない：38名<12.6%>）」，「変わらない（181名<21.5%>，425名<54.1%>，252名<83.7%>）」，「志望の気持ちが弱くなった（1名<0.1%>），7名<0.9%>，5名<1.7%>）」，「そのほか（15名<1.8%>，27名<3.4%>，6名<2.0%>）」というように，第一志望であるものほど，オープンキャンパスを通じて，より志望の気持ちが強くなっている一方で，第二志望以下及び，受験を全く考えていないものほど，変わっていないことがわかった。またこれを学部別にみてもその傾向にあまり変化は見られないが，医学部においては，受験を全く考えていないものでも「志望の気持ちが強くなった（18名<32.1%>）」という肯定的な回答が高くなっていた。

次に宮崎大学進学希望の変化における志望順位の効果を分析するために分散分析・多重比較を行った。分析の結果より，志望順位の効果は有意であることがわかった（ $F(2, 1927) = 169.07, p < 0.01$ ）。またTurkey HSDによる多重比較も行い，「第一志望」と「第二志望以下」「受験を全く考えていない」との間に有意差があることが確認できた。このため，オープンキャンパス参加時にすでに宮崎大学への志望順位が高いと，オープンキャンパスを通じて，より志望の気持ちが明確化されると言える。

4.4 出身県

4.4.1 大分大学

まず出身県と大分大学進学希望の変化との関係についてみると，「志望の気持ちが強くなった（上位5県・地域を示す；佐賀県：22名<73.3%>，熊本県：33名<68.8%>，長崎県：23名<67.6%>，福岡県：68名<65.4%>，九州地域外：51名<63.7%>）」，「変わらない（大分県：868名<47%>，鹿児島県：7名<43.8%>，宮崎県：73名<34.1%>，九州地域外：27名<33.8%>，熊本県：15名<31.3%>）」となっており，佐賀県の高校出身者において，オープンキャンパスを通じ，最も志望の気持ちが明確となっている一方，大分県の高校出身者は変化していない様子が見られる。またこれを学部別にみると特に医学部において，佐賀県の高校出身者で「志望の気持ちが強くなった」が多いのに対し，理工学部において，大分県の高校出身者で「変わらない」と回答したものが多くなっていることがわかった。

次に大分大学進学希望の変化における出身県の

効果を分析するため分散分析・多重比較を実施した。分析の結果から，出身県の効果は有意であることがわかった（ $F(8, 2386) = 4.682, p < 0.01$ ）。またTurkeyによる多重比較も行い，「佐賀県」と「大分県」との間に有意差があることが確認できた。

4.4.2 佐賀大学

初めに，出身県と佐賀大学進学希望の変化との関係についてみると，「志望の気持ちが強まった（宮崎県：17名<68.0%>，鹿児島県：23名<62.2%>，熊本県：41名<51.9%>，福岡県：277名<49.7%>，佐賀県：324名<44.4%>）」，「変わらない（大分県：74名<70.5%>，長崎県：80名<53.3%>，佐賀県：357名<49.0%>，熊本県：36名<53.3%>，福岡県：244名<43.8%>）」となることがわかった。人数は少数であるとはいえ，遠方からの参加者の方が志望度を上げている。また参加者の大多数を占める佐賀・福岡両県の生徒の9割以上が，少なくとも志望度を下げたことはないことがわかる。高校からの団体参加の多かった大分・長崎両県の生徒は，佐賀大学への志望度を上げるには至っていないことが確認できた。

学部別にみても，ほぼ全県において半数以上の生徒が志望度を強めたとしているのは医と看護であった。それ以外の学部はいずれの県でも「価値中立的に」捉えられている傾向がみられるようだ。

4.4.3 長崎大学

まず，出身県と長崎大学進学希望の変化との関係について，「志望の気持ちが強くなった」と回答した者の割合は，高い順に，沖縄（83.3%），鹿児島（82.1%），熊本（72.1%），宮崎（72.0%），九州地域外（68.6%），大分（65.8%），佐賀（59.3%），福岡（58.2%）及び，長崎（54%）となっていた。

志望の気持ちの変化に志望順位の影響があることを先に指摘した。長崎大学が第一志望であると回答した者の割合が高い順に都道府県を並べてみると，沖縄，鹿児島，九州地域外，熊本，宮崎，長崎，福岡，大分，佐賀というようになる。

志望の気持ちの変化が参加者の出身県によって異なることは，第一志望者の割合が出身県で異なることと大いに関連すると考えられる。

4.4.4 宮崎大学

初めに，出身県と宮崎大学進学希望の変化との関係についてみると，「志望の気持ちが強くなった（上

位5県・地域を示す；沖縄県：5名<100.0%>，佐賀県：6名<85.7%>，九州地区外：45名<75.0%>，長崎県：5名<71.4%>，福岡県：29名<69.0%>），「変わらない（大分県：84名<68.3%>，宮崎県：673名<44.1%>，鹿児島県：41名<41.4%>，熊本県：29名<40.8%>，長崎県：2名<28.6%>）」となっており，沖縄県や佐賀県の高校出身者において，オープンキャンパスを通じ，最も志望の気持ちが明確となっている一方，宮崎県やその隣県の高校出身者は変化していない様子がうかがわれる。またこれを学部別にみるとほとんど同じ傾向がみられるが，農学部と地域資源創成学部で，大分県の高校出身者で「志望の気持ちが強くなった」ものの割合が他の学部比べてかなり高くなっていることがわかった。

次に宮崎大学進学希望の変化における出身県の効果を分析するために分散分析・多重比較を実施した。分析の結果から，出身県の効果は有意であることが明らかになった($F(8, 1930) = 2.778, p < 0.01$)。またTurkey HDSによる多重比較も行い，「宮崎県」と「大分県」との間に有意差があることがわかった。

4.5 進学希望変化の規定要因—大分大学を事例に

本節では大分大学を事例に，進学希望の変化に与えるオープンキャンパスの効果について検証を行う。表1のロジスティック回帰分析を行った結果から，まず性別についてであるが，男性ダミー（基準値：女性ダミー）の有意な影響は確認されなかったものの，学年に関しては高校3年生ダミー（高校1年生ダミー）で有意な効果があることが明らかとなった。また志望順位についてであるが，第一志望ダミー（受験を全く考えていないダミー）で，そして出身県に関しては，佐賀県ダミー（それ以外の出身県ダミー）で有意な影響が確認された。

次に学部についてみると，医学部ダミー（経済学部ダミー）で有意な影響が確認されたが，教育学部ダミー，理工学部ダミーや，福祉健康科学部ダミーでは有意な影響がみられないことが明らかとなった。医学部では，ほかの学部とは異なり，オープンキャンパス参加者を高校2年生以上としていることから，オープンキャンパスを通じてより志望の気持ちを強くしている可能性が考えられる。最後にオープンキャンパスの効果に関わる変数として，「本学のオープンキャンパスに参加して知り得たかった情報は得られましたか」と尋ね，教育内容，就職状況，入試方法・内容，クラブ・サークル活動の状況，奨学金，アルバイト，学生生活，住居・住宅情

報及び，取得できる資格についてそれぞれ，「とても得られた=4」～「全く得られなかった=1」の4件法で回答を求めた。そしてその分析結果からわかるように，「学部関連情報」の情報を十分に享受し得た者で，それぞれ有意な効果が確認された。このことから本研究の冒頭において提示した仮説が支持されたと言える。その一方で，「全学関連情報」のものに関しては，いずれも有意な影響がみられないことが明らかになった。オープンキャンパスは学部ごとに企画立て，その学部の教員が行っていることから，有意な効果が確認された「学部関連情報」のものは学部で十分把握している事柄であるのに対して，有意な効果が明らかにされなかった「全学関連情報」のものについては，必ずしも学部で把握しているとは言い難いものであると考えられる。

5. まとめと今後の課題

本研究ではまず，進学希望の変化に与える要因について，大分大学・佐賀大学・長崎大学・宮崎大学の4大学間の比較から，一つ目に，大学間を通じて，男女による違いはみられず，男女共通して志望の気持ちを肯定的なものへと変化させていること，二つ目に，参加者である高校生の学年が上がるにつれて，志望の気持ちが強くなること，三つ目に，オープンキャンパスは，その大学を第一志望とする参加者の気持ちをより強固なものとする一方で，第二志望以下及び，受験を全く考えていない参加者に対してはその気持ちの変化はみられないこと，そして最後に出身県に関しては大学間で違いがみられ，大分大学では佐賀県出身者，佐賀大学では宮崎県出身者，さらに長崎大学・宮崎大学では沖縄県出身者が志望の気持ちを強くしていることが明らかとなった。

次に，大分大学を事例に，進学希望の変化に与えるオープンキャンパスの効果として「全学関連情報」「学部関連情報」を中心とした検証を行った分析の結果から，「学部関連情報」にかかわる情報を十分に得られた者で，それぞれ有意な正の効果があることが明らかにされたのに対して，「全学関連情報」のものは有意な影響は確認されなかった。

以上のことから，九州において18歳人口の最も少ないエリアに位置する国立4大学では，その学生募集・入試広報にかかわる課題もほぼ共通しており，その中でも特に第二志望以下並びに，受験を全く考えていない学生層に対して，オープンキャンパスを通じ，いかに大学がその気持ちを強くさせる取り組

表1 大分大学への志望の気持ちが強くなった生徒のロジスティック回帰分析（それ以外=0）

独立変数	偏回帰係数	オッズ比	
男性ダミー	-0.067	0.935	n.s.
高校2年生ダミー	-0.594	0.552	n.s.
高校3年生ダミー	0.436	1.547	**
第一志望ダミー	0.416	1.516	**
第二志望以下ダミー	-0.475	0.622	n.s.
佐賀県ダミー	0.132	1.141	*
教育学部ダミー	-0.017	0.983	n.s.
医学部ダミー	0.111	1.117	*
理工学部ダミー	-0.172	0.842	n.s.
福祉健康科学部ダミー	-0.134	0.875	n.s.
<<学部関連情報>>			
教育内容	0.417	1.517	**
就職状況	0.361	1.433	*
入試方法・内容	0.182	1.201	**
取得できる資格	0.261	1.298	**
<<全学関連情報>>			
クラブ・サークル活動の状況	0.036	1.037	n.s.
奨学金	0.048	1.049	n.s.
アルバイト	0.058	1.061	n.s.
学生生活	0.006	1.006	n.s.
住居・住宅情報	0.0001	1.001	n.s.
Nagelkerke決定係数		0.21	
モデル適合度		**	
N		1.277	

注) ** $p < 0.01$, * $p < 0.05$, $p = n.s.$

みを行っていけるかどうかということが鍵である。

また今回は大分大学を事例として検討を進めてきたが、オープンキャンパスの効果として「学部関連情報」の有効性が確認されたことは、少なくとも実質的には学部ごとにオープンキャンパスが企画、運営されている現状を考えると望ましいものであった。だが、対外的には大学によってオープンキャンパスが主催されている以上、当然参加者は、学部にかかわる内容の情報と等しく、全学にかかわる内容の情報も入手出来ることを期待して参加してきているため、それを今後いかに大学がオープンキャンパスで提供していけるシステムを作れるかという課題もみえてきた。このように今後の残された課題は多いが、研究を蓄積していくことで、より緻密な成果を提示していくことが期待される。

注

- 1) 国立大学のオープンキャンパスは学部が企画、立案しているため、学部に関わる情報が中心となる。
- 2) 長崎大学の回収率が、ほかの3大学に比べて低くなっているが、本研究を通じて、回収率も含め優劣をつけることを目的としていない。

参考文献

- 雨森聡 (2016) . 「入試広報戦略のありようについて—入試広報の効果検証を中心に」 『大学入試研究ジャーナル』 26, 111-116.
- 学校基本調査 (2017) . 高等教育機関への入学状況の推移 学校基本調査.
- 平尾智隆・大竹奈津子・久保研二・山内一祥 (2011) .

「ある国立大学における入試広報の効果測定—志望順位を決定する要因」 『大学評価・学位研究』 12, 19-28.

本多正尚・島田康行・大谷奨・高野雄二・関三男・佐藤真紀・白川友紀 (2011) . 「大学の入試広報と入学者の利用する情報源の差異およびその評価」 『大学入試研究ジャーナル』 21, 69-74.

池田光壺・木村拓也・山口恭弘 (2013) . 「入試広報としての実験講義」 『大学入試研究ジャーナル』 23, 227-231.

永田純一 (2011) . 「在学生による入試広報活動の取り組み—広報効果と人材育成の観点から」 『大学入試研究ジャーナル』 21, 91-96.

並川努・佐藤喜一・濱口哲 (2014) . 「入試広報に関する受験生・保護者の動向の検討—任型大学入学者を対象とした入試広報アンケートの分析から」 『大学入試研究ジャーナル』 24, 149-154.

進研アド (2017) . 全国、および9つの各エリアの18歳人口推移 進研アド

(https://f.msgs.jp/fcnts/ret/graph_renkets.pdf) <2018年3月12日>.

鈴木敏明・夏目達也・倉本直樹 (2003) . 「オープンキャンパスとA0入試」 『大学入試研究ジャーナル』 13, 7-10.

中央教育審議会 (2017) . 『高等教育の将来構想に関する基礎データ』 .

吉村幸 (2013) . 「新入生の受験校決定理由の特徴と入学時点での『気持ち』および学業成績との関連」 『大学入試研究ジャーナル』 23, 63-70.